

三峠物語

矢筈峠～京柱峠～笹越

山名物 猪うどん 閉店

京柱峠
1,500m

都への往還の峠道「京柱峠」。西山峠～京柱峠～祖谷と繋ぎ、四国山脈を横断した。かつては、通って祖谷から土佐へ坂下弘法大師が「京へ上るほどだ」と言ったことから峠名の由来とされている。京柱峠説明板より

国道43号

大豊町

明礪峠

大岩

スギ林

ヒノキ林

三好市 (東祖谷山村)

県境コース

岩

洞

原生林巻道

ブナなどの天然林

バイケイソウ 群生

シカが 下へ

美林

モミ千本

哺乳類は標高が高くなるほど体が大きくなる。このあたりはシカが下へ下へシカより一回り大きく見えた。

ウラジロミ 分岐

笹三角点 1524m

小檜山

モミ栂

空ビンの道標

小檜山

眺め最高

ファンタスティック!!

笹原

美しい笹の平原

足も軽くなる

笹原の中に鹿のハジツが無数に通っている

植林にうらない

注 道をそれやすい

西笹山

歩道不明瞭

笹こぎ

クマササの葉みの中にはシカのフンがいくつかある。マダニにも注意した。!

倒木や柵 急坂

栗林コース

柵をE下から登る時は目など突く危険。わざと突いて痛い

平担

この間 歩道良好

フナ

1200m

西山峠へ

末踏

笹越

笹集落最奥の明賀の小谷沿いから上り、小檜山から南下する尾根と交差し、山を越した道は大豊町の「コビツ川」に沿って、もとの「陰」を経て西山峠に下っている。かつては西山峠と笹越を結ぶ峠として往來が盛ん。笹の普賢様の祭りには大勢の人々が越えていた。時代が変わり、峠道も見捨られ、数々の思い出を残しながら、山中にその姿を隠そうとしている。土佐の峠風(記)より

笹は旧名「篠村」といわれ、北にそびえる山を「ササゲ」と呼び、後に「笹村」になつた。笹を代表する普賢堂の真祭りは近頃近石、笹越で豊永地区や祖谷からも多くの参詣者がみられ、夜を徹して盛大な踊りが行なわれた。山道が交わるために、豊永祖谷からも嫁が来て通婚圏が広がり、普賢様の盛況に通じていた。

矢筈峠は平家落人が祖谷から土佐へ越えてきた道でもあり、近世では木地師が西谷～笹～阿波と行動していた道。これらの道が集まる明賀へは、花嫁が各地から越えてきた道。たくさんの人のおしあわせが、深く刻まれてきた道である。

そよよと優しい風が吹くたびに、まわりの草の葉がサササと響く。心が洗われるとは、心うらやまを感じ、遠くへ来たら、たと思える山のひとつだ。

天を仰ぎ、光を吸い、生きていけ

東には細附森や天狗塚、物の瀬、西には榎ノ森方面がよく見える。南には修験の山、高板山。北には祖谷山、山鬼が連なっている。

笹原を空に向けて登りつめれば、眺望が開ける

矢筈山 1606.5m

低木樹林帯

岩点石

笹原に出る空が広がる

このあたりの歩道は、根付いた石が、出ているので、慎重に。

トサミツハツツ

東笹山

ところどころにツツジが咲いている。ほかなければ淡い色、有石感あふれる濃い色。新緑の緑と相まって、一日見ていても飽きる。ことごとく、2018.4.28

当時 3歳

お馬 17歳

明賀

坊主のぼし買と見たのよさこい節の主人公、紙信とお馬の二人は、笹集落の裏を抜けて阿波へ入り、琴平へとかけあちをしていったルートでもあり、情念に燃えて命がけで越えて行、ことを思うと天城越えを連想する。

象に乗る 普賢菩薩

笹の普賢堂

安徳天皇に供した徳庵という僧が、ここに普賢菩薩を、背負って来て安置したことが開基。高板山の御陵に眠られる安徳帝の菩提を弔う施設であるといわれている。現在の堂は宝永5年に信者により建立される。真祭日には徳島県からの参詣者も訪れる。

東笹林道開設にあたり、阿波の方々が、新築村に、当時、この峠を祖谷の地形に似ていることから、アリン峠と名付け、はるかな祖國に、思いをはせたといわれる。(登山口看板より)

祖谷側では「笹峠」と呼ばれる。

工場の道その歴史を歩く。土佐の峠風(記)より。高知の森林

矢筈峠-大橋車約50分

笹川

